



時宗布教伝道研究所研究員小田義宗

さてこれまでの五回のお話で、お釈迦様の生涯で最も重要な聖地である『インド四大聖地』をご紹介させていただきました。今回からはそれらにさらに4つの聖地を加えた『八大聖地』を一つずつ取り上げたいと思います。ちなみに、その八大聖地は書物等で多少違ったりしますが、ここは筆者の独断と偏見で選んでいます。ただ、選んではいけないところがあります。まず今回は、摩耶夫人説法後にお釈迦様が降臨されたと言われる『サンカーシヤ』です。



とここで現在のこの地は、聖地と呼ぶにはあまりにも整備されていません。それはここへ行くための宿泊所が、隣にはほぼ存在しなかったためだと思われまふ。そのため特に日本の旅行者が訪れよう

とすると、周りのどの都市からも車で数時間かかることを覚悟しなければなりません。しかし最近やっと日本人が経営するホテルが近郊にできましたので、もしかするとこれからはこの地を訪れる参拝者が増えるかもしれません。それにより、この聖地も劇的に変わっていくことを期待しています。

まあそんな話はさておき、この町が仏教聖地と崇められているのは、ここが仏陀降臨伝説『三道宝階降下の地』とされているためです。

【三道宝階の伝説】

悟りを開かれたお釈迦様が、祇園精舎から実母のマヤ夫人に説法をするために切利天に昇られました。そしてそこで

三ヶ月が過ぎ、地上へ戻られるその時、天道界から地上へ金・銀・瑠璃でできた階段

(三道宝階)が現れ、お釈迦様は諸天衆を従え聖地サンカーシヤへ降り立たれました。

(解説終)

現時点ではこの地で発掘された僧院や寺院の遺跡は無く、アショーカ王の建立による仏塔跡とその王柱の柱頭飾りが残る他は、その隣に建てられた白い小堂(右頁写真)に三道宝階降下のレリーフが安置されているだけです。

しかし七世紀にここを訪れた玄奘三蔵は、その著書『大唐西域記』の中でこの地に立派な伽藍が整備され精舎などがあったことを紹介しています。ですから、おそらくそれら全て

はまだこの場所の地中奥深くに眠っているのでしょうか。

そのような地ではありませんが、逆にそれゆえにインドのその他の観光地のような騒然とした雰囲気のない、お釈迦様の聖地本来の神秘性を感じることが出来る場所でした。

◆ 生母・摩耶夫人

摩耶夫人とはお釈迦様の実母で、お釈迦様生誕の七日後にお亡くなりになりました。日本では、四月八日お釈迦様生誕『花まつり』の日に、そのお名前を聞くことがあるかと思えます。

とここで今回のサンカーシヤの白い小堂の近くには、高低い丘がありました。現在その丘の上には、ヒンズー教の祠が二つあり、一つはヒンズー



の絶対神が、そしてもう一つには『ピサリーデビ』という女神様がお祀りされています。ピサリーとは「誰も覚えていない」の意味で、現地の方もよく分からないまま崇拜しているそうです。この女神はおそらく摩耶夫人のことだと推測されますが、筆者の住む神戸の六甲山系にも摩耶山という山があり、その山頂には全国唯一と言われる摩耶夫人堂(左写真)を祀る天上寺があります。意外と皆さんの身近にも、摩耶夫人がお祀りされているのかもしれないね。